

地区公民館の役割を再生する

～もっと“つながる”公民館活動へのヒント～



これからの地区公民館に求められる役割

多古公民館の文化祭での
白山中学の吹奏楽部の演奏

子どもの居場所

地域に密着した場として子どもの居場所をつくることで、「地域みんなで子どもを育てる」認識が生まれ、よりよい地域づくりにつながります。



永塚公民館での「上府中子育てひろばアイアイ」

緩やかで気軽な フリースペース

いろいろな人が一人でもふらっと訪れ、思い思いに自由に過ごせる場があると、その場に居合わせた人同士の緩やかで気軽な交流が生まれます。



下堀公民館での「ほっと下堀」

世代間交流の場

地域の人と人や、団体同士の横のつながりに加えて、いろいろな世代がつながる縦のつながりをつくる場となります。



今井公民館での「まちだっこ食堂」

地域にとらわれない 人々の集いの場

地区（自治会）の住民だけでなく、地域外からも自治会加入の区別なく様々な人が集える場となると、利用者は増えて、活動も活性化します。



地域内外から様々な人が利用する谷津公民館

■ あなたのまちの地区公民館とは

地域づくりや住民活動の促進を目的として、自治会等の住民が主体となって設置する施設です。

公民館のような法律による厳密なしぼりはなく、各地区公民館の規則により、自由度が高く柔軟な運営ができます。

文化活動などの生涯学習や、地域の親睦交流、防災や福祉の集会など、地域の自主性に基づき運営されます。

小田原市内に

128館



集う



結ぶ



学ぶ



より多くの人を利用するためのアイデア

■公民館の運営でこんなお悩みありませんか？



- ・ 役員のなり手が不足している。
- ・ どんな活動をしたらいいかわからない。



- ・ 公民館の利用者が固定化されている。
- ・ 部屋は空いているのに使えない。

地区公民館をもっと「みんなが使いやすい」場所にしよう！

①子ども、若者、子育て世代の利用者拡大

子どもを大事にする地域、地域みんなで子どもを育てる認識が、よりよい地域づくりにつながります。子どものイベントには、その保護者（若い世代）も一緒に付いてきます。

子ども、若者、子育て世代を巻き込みながら、無理なく楽しく取り組むことが大切です。

- 若者や子育て世代は、自分たちが楽しいと思えば、離れたところからでも仲間同士でやってきます。
- 地元の中学校や高校と連携したイベントを行うのも効果的です。

具体的なアイデア



- ある程度決まった日時に管理人をおいて、**子どもが自由に過ごせる時間帯**をつくる。
- 恒例のお祭りのほか、バーベキューや清掃作業など、**若い世代と一緒に作業**する。



週1回程度、公民館を自由に過ごせる場として開放している下堀公民館での「ほっと下堀」



「こどもそさぽーと」の皆さんが久野公民館（久野区民会館）で開いたハロウィンの集い



地区社協を中心に、焼きそばをふるまう今井公民館での「まちだっこ食堂」

②地域外の利用者拡大

地区公民館は、地域住民が建設費や日ごろの運営費を払っているため、「地域だけのもの」という意識になりがちですが、全国的な流れは地域外の人でも利用できる「**開かれた地区公民館**」です。利用者の幅が広がると活動が活性化し、地域交流や地域を超えた学びの広がりが期待できます。

- 地域外の人と、地域の子どもとその保護者や地域の大人と一緒に何かをする仕組みが大切です。
- “非日常的な経験”を求める子どもや若者と、サポートする大人との地域を超えた世代間交流が生まれるのが望ましいです。

具体的なアイデア



- 他地域の人でも**ある程度の利用料**を払うことで、利用できるようにする。
- 大学と連携し、公民館を拠点にして、学生と地元の子どもが**農作物の収穫体験**をする。



桜井稲作組合の指導のもと、伝統の栢山田植え歌を聞きながら田植え体験をする報徳小の子どもたち



地域外の人でも有料（割増料金）で参加できる多古公民館主催の藍染め教室の催し



食育に取り組む「おだわら六彩会」を中心に始まった酒匂での子どもの居場所「はまっこてらす」

使いやすい施設管理や設備環境のためのアイデア

地区公民館をたくさんの人に利用してもらうには、施設管理や設備環境での工夫も大切です。

①鍵と予約の管理

地区公民館には基本的に常駐の管理人がおらず、予約管理や鍵の開け閉めが役員の負担になります。利用したい人からは「予約方法が分からない」「鍵を受け取りに行くのが面倒」など、利用をためらう一因になっています。鍵の貸し借りに、双方の手間が少なくなるような工夫が効果的です。

- 地域外の利用者からの利用料等を人件費に充て、有償の管理人をおくことも考えられます。
- 複数人による鍵の管理や、鍵の管理者と予約管理者の役割分担なども考えられます。

具体的なアイデア

- **ダイヤル式のキーボックス**の中に鍵を入れ、使用料の支払い時にダイヤル番号を教えることで、**利用者自身が鍵の開閉**を行う。



職員の不在時は、申請時にダイヤル番号を伝え、公民館の使用後は、鍵と報告書をボックスに返却する大崎市古川宮沢地区公民館の事例

出典
【みやざわ地区公民館ブログ】



②インターネット環境の整備

パソコンやスマートフォンの利用が浸透する中、地区公民館にインターネット回線を引き、Wi-Fiを整備することにより、若者や子育て世代の利用が広がると考えられます。

それぞれの公民館の状況に応じて、できるところから柔軟に対応していくことが望ましいです。

- 家庭によってネット環境が十分でない子もいる中で、誰もがインターネットが使える場にできる。
- Zoomなどのオンライン会議サービスを利用した地区公民館同士の双方向のやりとりも可能です。

具体的なアイデア

- スポーツイベントなどの**パブリックビューイング**の会場にする。
- コロナ禍で普及した若者の**テレワーク利用**
- 小学校で配付された**タブレットによる自習**



2016年のリオデジャネイロオリンピックのときに開催されたパブリックビューイングの様子



オンライン会議ツールの活用の様子



パソコンの使い方を教える小田原市集会所での子どもの居場所「はまっこてらす」の様子

施設の老朽化は、地区公民館の共通課題です。

- 建設から40年を超えている建物 **85館 (66%)** ※令和2年10月時点
- 耐震基準を満たしていない館 **41館 (32%)** ※令和2年3月時点

地区公民館への補助金

地区公民館の建設、維持修繕等の一部を補う補助金があり、公民館の建て替えや修繕にも使われています。バリアフリー化や空調などの設備面の改善のほか、生涯学習活動への補助もあります。



(一財)自治総合センターの助成事業を活用し、建て替えられた「風祭自治会公民館」



地域で資金計画や維持修繕の方向性を話し合うことが大切です。くわしくは、市の生涯学習課 (☎0465-33-1721) にご相談ください。

もっと「集う」「学ぶ」「結ぶ」地区公民館であるために

①公民館活動の中心となる人を育てる

さまざまな団体とつながり、公民館活動を活発にするには、中心となってサポートやコーディネーター役を担う人がいることが大切です。

中心となる人を育てるためには、その人自身が活動の楽しさ、やりがいを感じられることも重要です。



中心になる人の
具体的なイメージ

- ・現在、活動中の人
- ・子育てひろばで活動していたが子どもが大きくなった保護者

②地区公民館の活動を育てる

各地区公民館の日常的な活動を知ることは、自分の地域の活動の具体的な参考にもなり、新たなアイデアや提案も生まれやすくなります。年間を通じてタイムリーに情報共有できるとよいです。

また、活動の楽しさやメリットを積極的に発信することで、利用者の拡大を図りましょう。



城下町スポーツクラブを招いてポッチャを楽しむ今井公民館での「まちだっこ食堂」



ふれあい農園での収穫体験などさまざまな企画を公民館主催で催す多古公民館



合唱を交えた高齢者昼食会のほか、囲碁やヨガなどさまざまな団体が年間約6000人利用する谷津公民館

③生涯学習センターが担う支援

外部から講師を招いて魅力的な講座を催すために、キャンパスおだわらの制度を活用できます。また、市の「地区公民館講座事業」から講師謝礼金の補助が受けられる場合もあります。

【キャンパス講師を招く】



専門知識や特技を生かして、有償または無償で活動するボランティア講師を紹介しています。指導分野は健康・趣味・音楽とさまざまです。

情報はこちらに掲載



詳しくは、
キャンパスおだわら
ホームページにて

【きらめき出前講座で職員を呼ぶ】



市職員が公民館等に出向き、講座を行います。防災対策などの行政の施策の勉強会のほか、健康づくりのための栄養教室にも利用されています。

小田原市地区公民館連絡協議会

市内地区公民館で構成する連絡協議会の中では、役員同士の情報交換を進めるほか、「公民館大会」や「地区公民館いきいきフェスタ」を通じて、地区公民館の相互交流を促進しています。



優れた公民館活動を表彰する「公民館大会」



文化学習サークルの発表の場となる「地区公民館いきいきフェスタ」